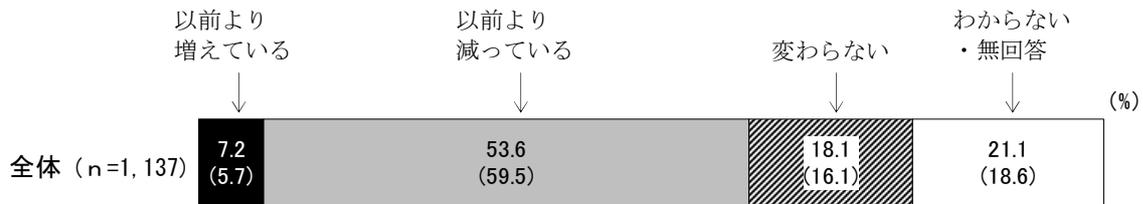


### Ⅲ 地域の教育力

#### 1. 地域の青少年と大人たちとの交流

— 「以前より減っている」が5割台半ば—

問8 青少年は家庭や地域の中で、身近な大人を手本として育ちます。あなたの住んでおられる地域では、ご自身の子ども時代と比べて、地域の青少年と大人たちとの交流はどのような状況にあると感じていますか。次の中から1つだけ選んでください。



※( )内の数値は、平成21年の調査結果

地域の青少年と大人たちとの交流については、「以前より減っている」(53.6%)が5割台半ばと最も高くなっている。

前回調査と比べると、「以前より減っている」が約6ポイント減少している。

— 「以前より減っている」は女性の30代で6割を超え、男性の40代と女性の60代で約6割—

地域別でみると、「以前より減っている」は、鹿行(58.7%)で約6割と最も高く、県央(56.9%)と県西(56.3%)で5割台半ばとなっている。

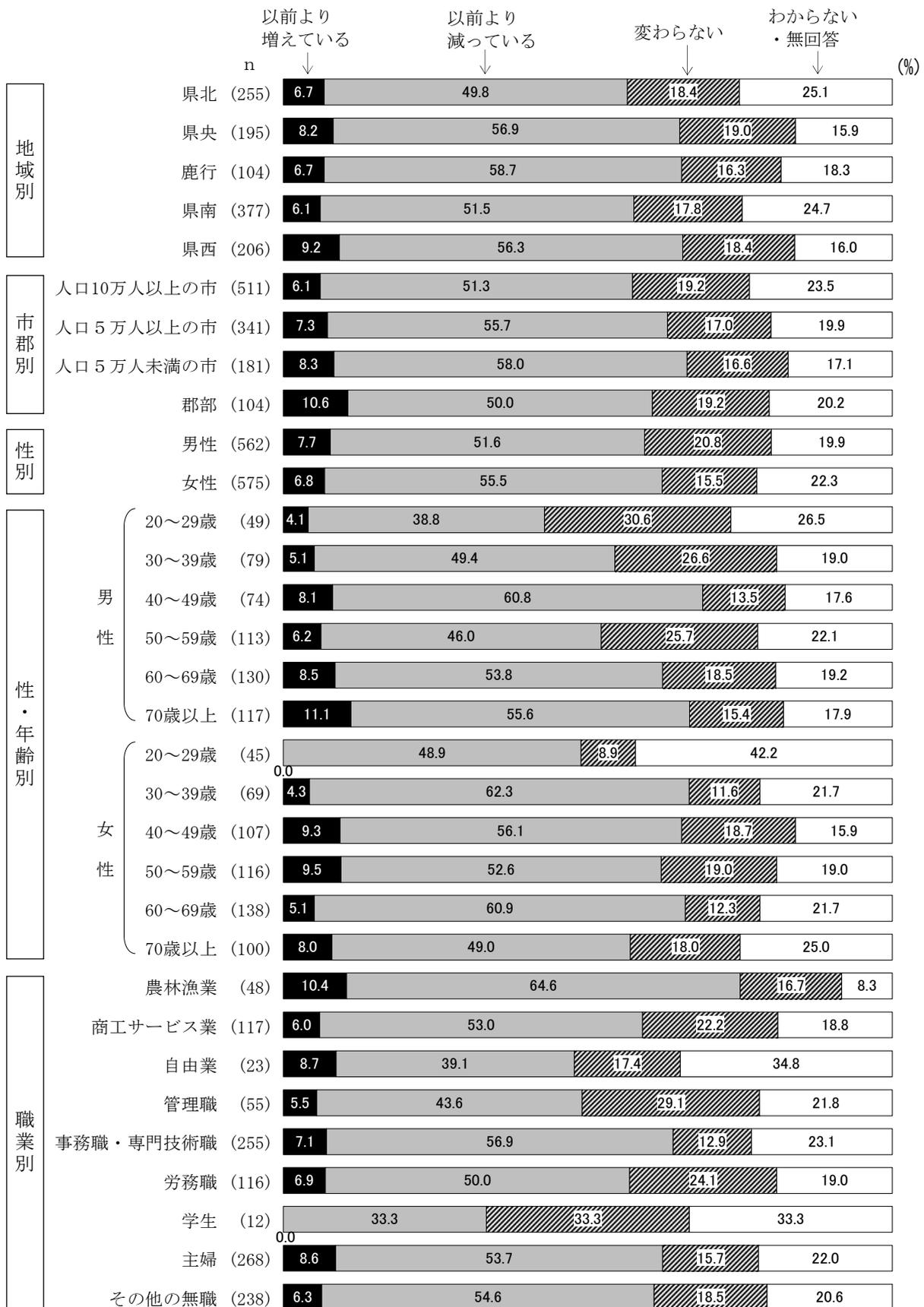
市郡別でみると、「以前より減っている」は、人口5万人未満の市(58.0%)で約6割と最も高く、人口5万人以上の市(55.7%)で5割台半ばとなっている。

性別でみると、「変わらない」は、男性(20.8%)が女性(15.5%)よりも約5ポイント高くなっている。一方、「以前より減っている」は、女性(55.5%)が男性(51.6%)よりも約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「以前より減っている」は、女性の30代(62.3%)で6割を超え最も高く、男性の40代(60.8%)と女性の60代(60.9%)で約6割となっている。一方、「変わらない」は、男性の20代(30.6%)で約3割と最も高くなっている。

職業別でみると、「以前より減っている」は、農林漁業(64.6%)で6割台半ばと最も高く、そのほかでも、管理職(43.6%)以外のすべての職業で5割台となっている。一方、「変わらない」は、管理職(29.1%)で約3割と最も高くなっている。

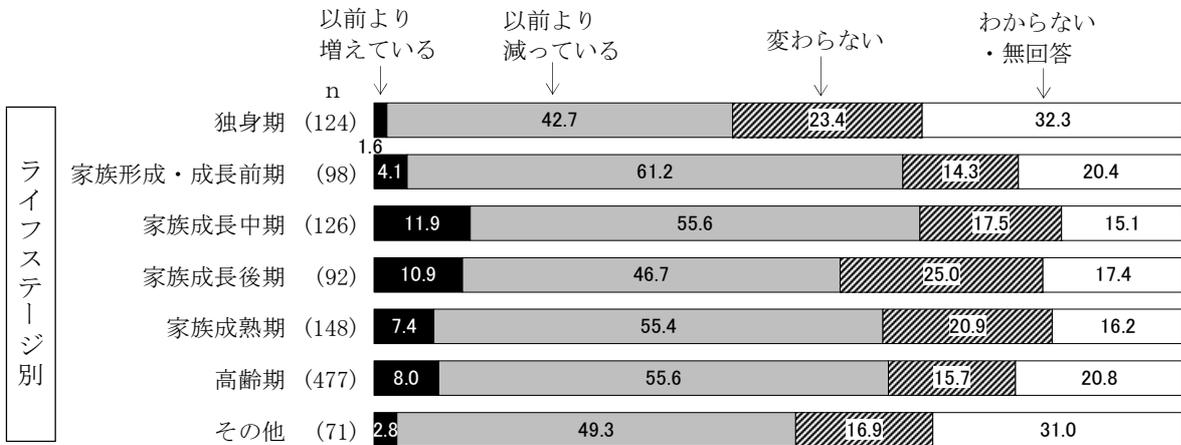
図Ⅲ 8-1 地域の青少年と大人たちとの交流  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

ライフステージ別でみると、「以前より減っている」は、家族形成・成長前期（61.2%）で6割を超えて最も高くなっている。

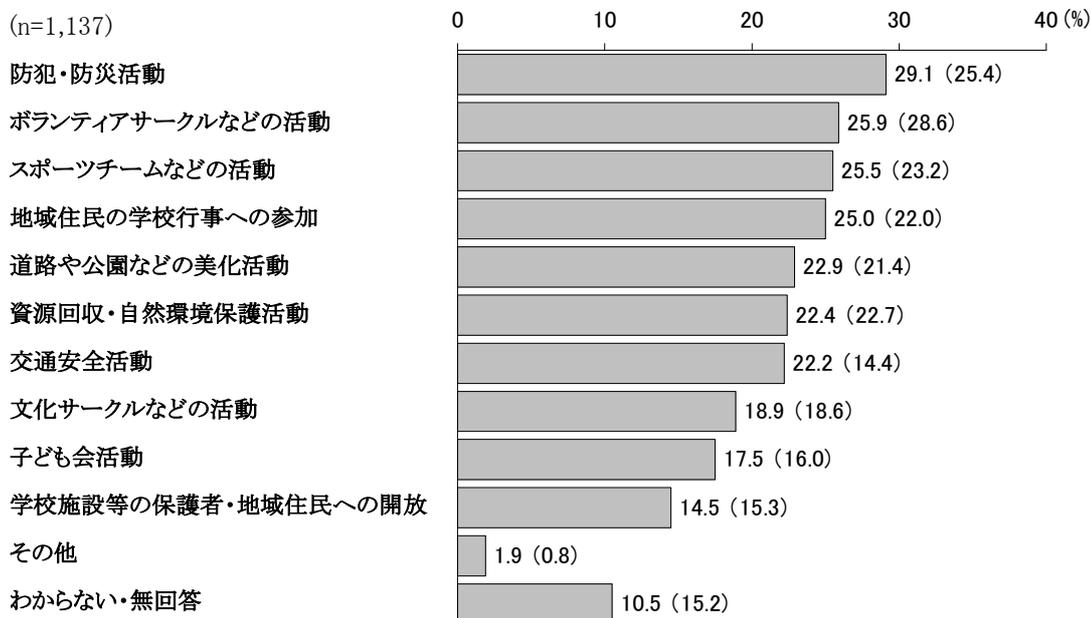
図Ⅲ 8-2 地域の青少年と大人たちとの交流（ライフステージ別）



## 2. 地域の青少年と大人たちとの交流を増やすために力を入れるべき活動

—「防犯・防災活動」が約3割—

問9 あなたは、今後、地域の青少年と大人との交流を増やすためには、地域でどのような活動に力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



※( )内の数値は、平成21年の調査結果

地域の青少年と大人たちとの交流を増やすために力を入れるべき活動としては、「防犯・防災活動」(29.1%)が約3割と最も高く、次いで「ボランティアサークルなどの活動」(25.9%)、「スポーツチームなどの活動」(25.5%)、「地域住民の学校行事への参加」(25.0%)、「道路や公園などの美化活動」(22.9%)、「資源回収・自然環境保護活動」(22.4%)、「交通安全活動」(22.2%)が2割台で続いている。

前回調査と比べると、「交通安全活動」が約8ポイント、「防犯・防災活動」が約4ポイント増加している。一方、「ボランティアサークルなどの活動」が約3ポイント減少している。

#### —「防犯・防災活動」は女性の50代で約4割—

地域別でみると、「防犯・防災活動」は、県北（31.0%）、県央（33.3%）、鹿行（36.5%）で3割台と高くなっている。「ボランティアサークルなどの活動」は県西（32.0%）で3割を超えて最も高く、「スポーツチームなどの活動」でも県西（29.1%）は約3割と最も高くなっている。また、「地域住民の学校行事への参加」は県北（28.2%）と県央（30.3%）で約3割、「道路や公園などの美化活動」は県南（28.1%）で約3割と高くなっている。

市郡別でみると、「防犯・防災活動」は郡部（20.2%）以外のすべての層で3割前後、「ボランティアサークルなどの活動」は人口10万人以上の市（23.5%）以外のすべての層で2割台後半となっている。また、「スポーツチームなどの活動」は人口5万人未満の市（30.9%）で約3割、「地域住民の学校行事への参加」は郡部（31.7%）で3割を超えて、それぞれ最も高くなっている。

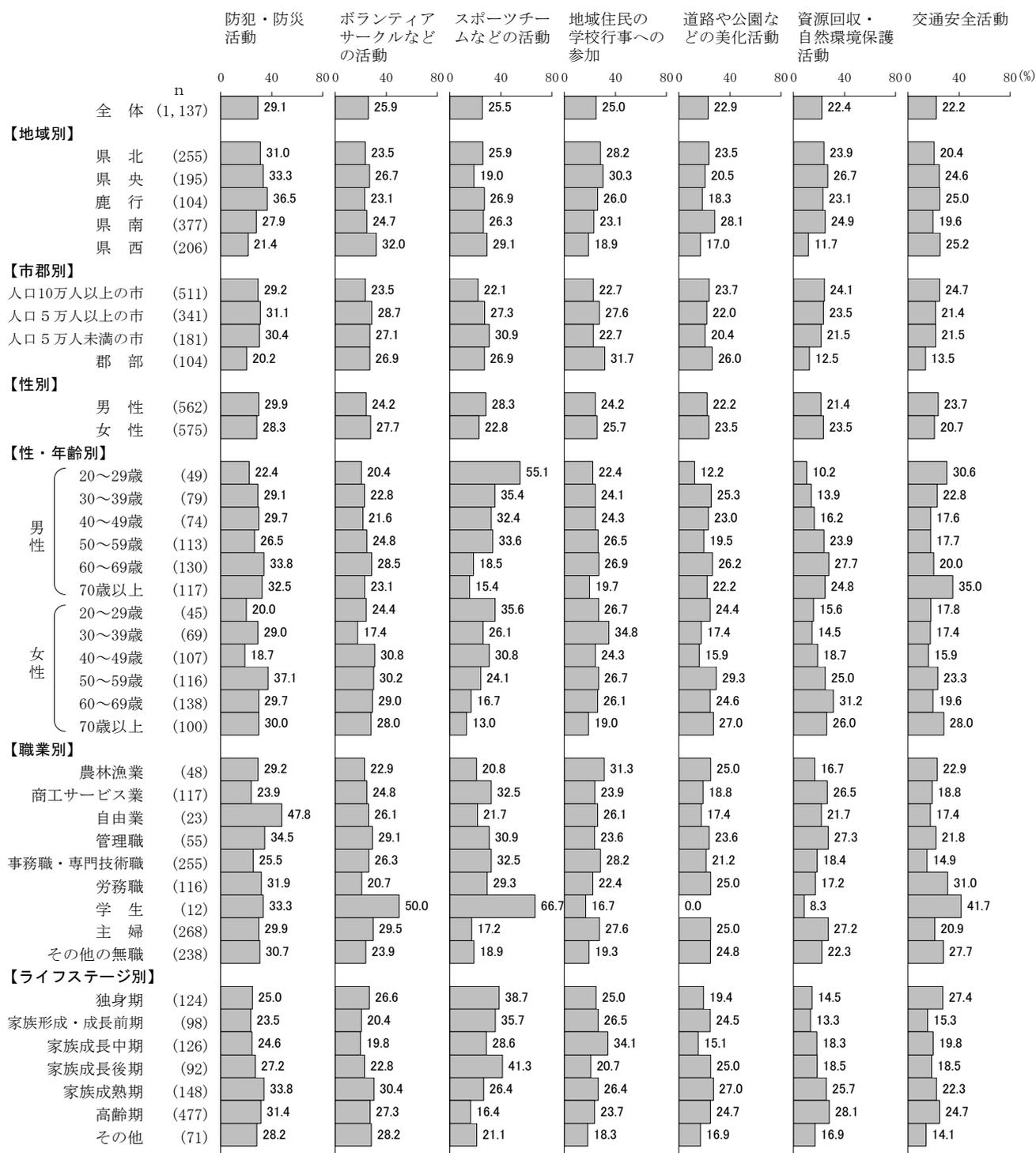
性別でみると、「スポーツチームなどの活動」は、男性（28.3%）が女性（22.8%）よりも約6ポイント高く、「交通安全活動」は、男性（23.7%）が女性（20.7%）よりも3ポイント高くなっている。一方、「ボランティアサークルなどの活動」は、女性（27.7%）が男性（24.2%）よりも約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「防犯・防災活動」は、女性の50代（37.1%）で約4割と最も高く、男性の60代（33.8%）、70歳以上（32.5%）、女性の70歳以上（30.0%）で3割台となっている。「ボランティアサークルなどの活動」は、男性のすべての年齢で2割台となっているが、女性では40代（30.8%）と50代（30.2%）で約3割となっている。また、「スポーツチームなどの活動」は、男性の20代（55.1%）で5割台半ばと最も高く、女性の20代（35.6%）で3割台半ばとなっている。このほか、「地域住民の学校行事への参加」は女性の30代（34.8%）で3割台半ば、「交通安全活動」は男性の70歳以上（35.0%）で3割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「防犯・防災活動」は管理職（34.5%）で3割台半ばと最も高く、「ボランティアサークルなどの活動」は管理職（29.1%）と主婦（29.5%）で約3割と高くなっている。また、「スポーツチームなどの活動」は商工サービス業（32.5%）、管理職（30.9%）、事務職・専門技術職（32.5%）で3割台となっている。このほか、「地域住民の学校行事への参加」は農林漁業（31.3%）で3割を超え、「交通安全活動」は労務職（31.0%）で3割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「防犯・防災活動」は、家族成熟期（33.8%）と高齢期（31.4%）で3割台と高く、「ボランティアサークルなどの活動」でも、家族成熟期（30.4%）は約3割と高くなっている。また、「スポーツチームなどの活動」は、家族成長後期（41.3%）で4割を超えて最も高く、独身期（38.7%）で約4割、家族形成・成長前期（35.7%）で3割台半ばとなっている。このほか、「地域住民の学校行事への参加」は、家族成長中期（34.1%）で3割台半ばと最も高くなっている。

図Ⅲ 9-1 地域の青少年と大人たちとの交流を増やすために力を入れるべき活動  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位7項目)



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。